

令和7年度 第52回 人権・同和問題地域懇談会

第52回人権・同和問題地域懇談会（以下、地域懇談会）は、10月1日（水）～11月2日（日）の日程で町内33行政区31会場で、DVD視聴と懇談という形式で行いました。今年度のテーマは「外国人問題」と設定し、7月に開催した市民講座と関連した形をとりました。継続して町民の皆さんと外国人問題について考えることができたのではないかと思います。



(1) DVD及び懇談会の内容について



DVD「サラマット～あなたの言葉で～」のテーマは、「SNS時代における外国人の人権」です。桂川町でも外国人の方と接する機会が増え、職場や地域で共に生きる時代になっています。一方で、文化や、言語、習慣の「違い」や「偏見」から外国人が増えることに抵抗を感じている人も少なくありません。『異なる文化の人たちを、共に未来をつくる新しい存在として尊重し、互いに高め合っていく』そのような「多文化共生」の実現を目指す人権啓発DVDで、テーマが外国人問題と絞られていたため、身近に感じる人とそうでない人との関心の高さに差が出たと思われます。

「桂川町も外国人が増えていると思うので、共存していきたい」「外国人への差別はないが、言葉の壁は難しい」などの意見がありました。



(2) 参加状況について



今回の地域懇談会の参加者は350名でした。

アンケートについては、344名から回答がありました。

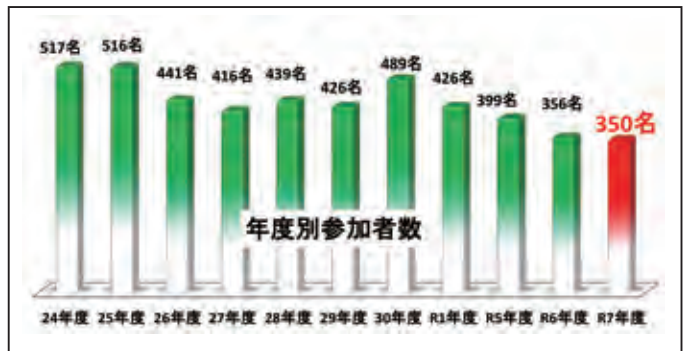
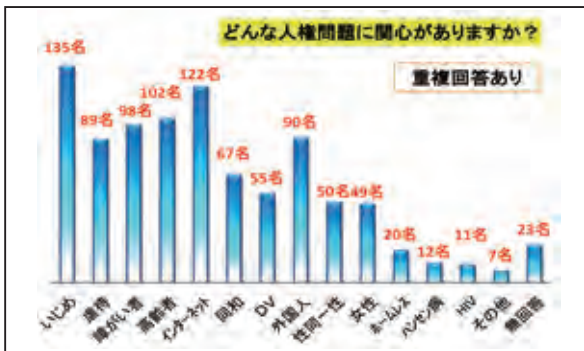
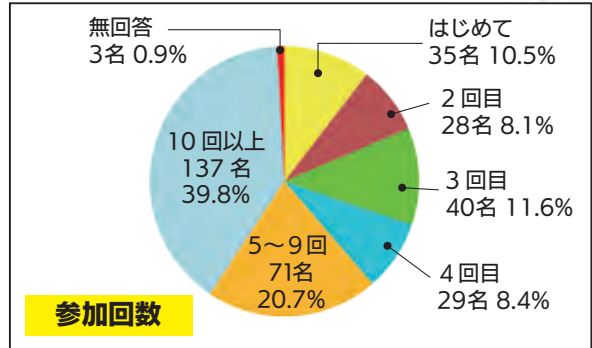
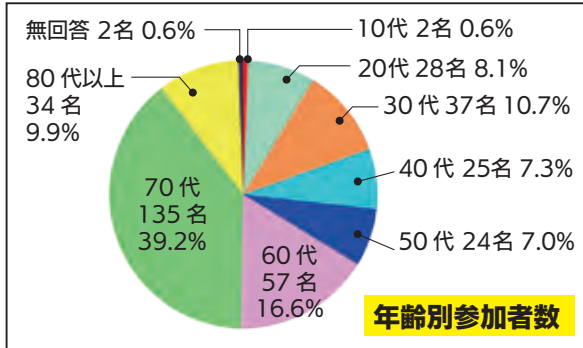
年代別参加者は70代の参加者が最も多く約4割を占めており、60代以上で見ると6割以上となっています。10～50代の参加は、全体の3割程度となっています。参加回数は10回以上参加した割合が4割と最も多く、地域懇談会が地域に定着した取り組みになっています。また、初めての参加者は1割以上ありました。



令和7年度 第52回人権・同和問題地域懇談会 アンケート集計結果

● 開催期間 令和7年10月1日～30日・11月2日
 ● 開催場所 33行政区31会場

● 参加人数 350名
 ● アンケート提出者 344名



～ アンケート紹介 ～

- ニュースなどの外国人のマナーやトラブルだけで偏見を持つのではなく、実際に話をしたり交流して感じる事が大切だと思いました。自分の経験でも外国人からの気づきで新しい発見をしたこともあるので、今後も「文化の違い」を「壁」とするのではなく「興味」としていきたいと思います。(20代)
- 桂川町のみなさんの心のあたたかさを感じる時間となりました。「優しさがあれば」「思いやりの心があれば」いかなる差別も良い方向へなるのではないかと...と思いました。ありがとうございました。(30代)
- DVDでミランダさんの「悪いことをするために日本へ来たんじゃない」という言葉が印象に残った。偏見を持たず接する事の大切さ改めて感じた。お互いにおもいやりを持つことの大切さを実感した。(50代)
- 現在も表に出ていない差別がある中では、今後も継続して続けていくべきである。どんなに参加人数が少なくなっても、その参加者から次につながるようにしていかなければならない(60代)
- ビデオの中で、一人ひとり違うから面白いといわれていたことが外国人だけじゃない、人間として個人を思いやる事が大事だと思う。人を尊敬すると自分も尊敬されると思う(70代)
- 外国人だけでなく、障がい者、同和問題、いじめ等の差別問題がありますが、自分自身の生き方として常に相手の立場で物事を考えられる人間でありたいと思います。今日は新たに自分を見つける良い機会となりました。(80代)

アンケートについては、できるだけ原文のまま掲載しています。

令和7年度第52回人権・同和問題地域懇談会

成果

今年開催した市民講座「人権講演会」と共通する「外国人問題」(多文化共生)を令和7年度のテーマとして継続したことで、町民に対して改めて考えていただく機会を提供することが出来ました。

(参加者の声：一部抜粋)

- 桂川においても外国人が増えていると思う。共存していきたい。
- 外国人への差別はないが、言葉の壁は難しい。
- すべて思いやりの一言につきる。人と人とのつながり。
- SNSだけでなく、テレビニュースの情報も信用できないことが多いので、年に1回このように勉強するのは大切だと感じた。



課題

(若い人への参加の呼びかけ)

- 若い世代の参加率が低いため、新たな広報手段が必要です。



懇談会を終えて



人が求める人権課題のテーマは、その人の環境によって変化するため多岐にわたります。そのため「同和問題はとりあげなくてよい」「地区懇はもうしなくてよい」という意見と「毎回、同和問題をテーマにしてほしい」「毎年1回は地区懇を開催してほしい」というように、各人が持つ幅広い人権意識がありました。

「人が幸せに生きるために、また自分だけでなくみんなが幸せになるために」そして「人権文化のまちづくり」を目指し、今後もこの地域懇談会を町民のみなさんとともに継続していく必要があると思います。

人権の花運動

この運動は、筑豊地域人権啓発活動ネットワーク協議会が企画・立案した、法務省所管の地域人権啓発活動活性化事業の一つです。主に、小学校を対象として、花を育てることによって優しさと思いやりの心を育むことを目的としています。

今回桂川町では、桂川東小学校3年生・4年生が校庭の花壇にひまわりの種をまきました。11月4日(火)の人権学習の時間に収穫した種にメッセージを添えて紙製の風船に乗せて空へ飛ばしました。



5月1日



5月31日



6月21日



7月12日



11月4日 (種飛ばし)



8月15日

小学校6年生人権聞き取り学習

この取り組みは、小学6年生が「基本的人権」について学習するうえで、差別の現状及び差別をなくすための取り組み等について聞き取り学習を行っているものです。

今年度はインフルエンザの影響で2月10日に桂川東小学校、3月6日桂川小学校が人権センターで行いました。全国水平社、桂川村水平社の起こりや現在の部落差別の状況について、地域活動指導員から話を聞きました。

児童たちは聞き取り学習をとおして、「相手の気持ちを想像すること」の大切さを学び、互いを尊重する心を育む機会となりました。



桂川東小学校6年生



桂川小学校6年生